

「読書の秋・・・西田先生のおすすめの一冊は？」

●はるかさんからの質問

政治の質問ではないのですが、「読書の秋」にちなんで、西田先生の愛読書、おすすめの本など、是非教えて頂きたいです。

●西田昌司の答え

最近、私が結婚式に呼ばれた時には必ず紹介する本があります。山本周五郎という作家が随分昔に書いた「日本婦道記」という短編小説集（1943年刊行）です。

「日本婦道記」は江戸時代、厳しい武家の定めの中で、夫のため、子のために生き抜いた日本の妻や母の女の道を描いた作品です。江戸時代ですから封建的で理不尽な出来事がいろいろと起きるのですが、そのような中でも女性が凛として生き、御主人や家や子を支える姿が描かれています。これを読むと、女性を敬服してしまうのみならず、女性の周りのご主人を始めとする人々もまた立派なものだと思わされます。

それに比べて現代を生きる我々は、理不尽なことは頭から受け入れたくないものです。「何でも自分で自由に決められるし、たとえその結果が失敗したとしてもまたやり直せばいいんだ」くらいの軽い気持ちで生きているとも思えますし、それだけ我々の社会は恵まれているのですが、それが普通となってしまうと幸福の実感も湧かないわけです。逆に、江戸時代のように貧困や身分制度のある不自由な社会で一生懸命に生きる方が、人は充実した人生を送ることができると思います。

結婚して家庭を持つと、自分の思い通りにならないことが沢山出てきま

す。理不尽さを抱え込むのが結婚と言えるかもしれません。しかし、自分を犠牲にしながらも家族の為に尽くして一生懸命に生きるのが幸福にもつながるわけです。

私はこの本を随分前に新幹線の中で読んだのですが、不覚にも涙を流してしまいました。皆さんもぜひ「日本婦道記」を読んでもらえればと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>